

洲本市では、本町1丁目、同5丁目、馬場町甲、海岸通り2丁目、細工町、山手2丁目などかなり広い範囲で多数見ることができる。その密度は、クロツバメシジミが生息する赤穂市、竜野市に匹敵し、本種が生息するに足りるものである。

今の度の調査では、ツメレンゲは確認できたものの、ツメレンゲが多数生える高い屋根の上に事情があって上がれず、残念ながら本種の生活史全プロセスの内、いずれのステージでも確認はとれなかった。

県下で屋根瓦にツメレンゲが自生するところでは、すべてクロツバメシジミが生息していること(明石市は未調査)。淡路島を取り巻く、兵庫県瀬戸内側、岡山県瀬戸内側、小豆島、高松市、和歌山県紀三井寺、有田市、箕島などにも本種が生息している(藤岡知夫、1975)ことなどから、淡路島に本種が生息していても不思議ではない。今後同学諸氏の調査を期待したいものである。

尚、他県で発表されている食草の1つに、タイトゴメがある。(紅谷進二、1971)によれば、県下にも海岸地帯に分布しており、淡路島では、江井町、沼島(古い町並もある)阿那賀、福良などが報告されている。ツメレンゲの産地と併せて調査を進めたいと考える。

本稿を草するに当り、ツメレンゲについて御教示いただいた湯浅史氏、今の度の調査に御協力下さった尾崎勇氏に、未筆ながらお礼申し上げます。

参考文献

藤岡知夫(1975) 日本産蝶類大図鑑 講談社(東京)

紅谷進二(1971) 兵庫県植物目録 六月社(大阪)

淡路島に於けるウラナミシジミの 越冬について

広畑政己

淡路島では6月から10月にかけて、各地で本種の成虫が見られ、12月下旬にも成虫の飛翅が確認されたことがある(登日邦明、1974)。しかしまだ土着の確認はされていない。

本種が越冬するためには、冬期にもマメ科植物の花が途絶えることなく咲いていること、降霜

日がないこと、最寒月の平均気温が7°Cを下らぬことなどがわかっている(日浦勇、1973)。また千葉県房総南端での調査では、12月~3月までの平均最低気温が5.4°Cで越冬したことも報告され、発育ゼロ点ギリギリでも食物さえあれば冬を越すことができる(日浦勇、1973)。

因みに、本島南端の灘地区の冬期気温をみると、1977年12月~1978年3月までの最低平均気温は4.8°Cで、0°C以下となった日数は2日となっており、房総南端とあまり大差がないことがわかる。

一方食草については、1978年10月22日の調査でインゲンマメを広石で確認し、灘の海岸沿に自生するハマエンドウにも多数の卵を見ることができた。

本島でのマメ科食物の冬期栽培の主産地は、灘地域ではなく三原町などに多いようであるが、灘地域でも民家で栽培されているものがところどころで見られ、冬期でも花をつけている。

このような事実から、(登日邦明、1974)にも指摘があるように、島内でも冬期気温が温暖な、灘地域、沼島などでは、年によっては越冬が予想される。冬期に於ける同地域の調査を期待したい。

参考文献

登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(II) 名古屋昆虫同好会 佳香蝶 Vol. 26
NO. 99 P 25~32

日浦 勇(1973) 海をわたる蝶 蒼樹書房(東京)

PARNASSIUS No. 19

1978年11月15日印刷

1978年11月18日発行

編集者 登日邦明

発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方
振替 神戸49591

印刷所 れいめい社

〒656 洲本市本町5丁目1-24